

# 保育士養成における音楽表現技術向上のための実践的試み

仲 嶺 ま り 子

Practice for Improving Musical Expression  
Skills in Students of Early Childhood  
Education Course

Mariko NAKAMINE

## はじめに

現在の乳幼児保育において、音楽表現活動の果たしている役割は大きく、保育に欠かすことのできないものである。例えば、子供と向かい合ってふれ合い遊びをしたり、あるいは自由に体を動かしながらリズム遊びを楽しんだりなどいろいろな場面で音楽表現活動がおこなわれている。もちろん、これらの活動を通して自己表現する喜びや他者との活動の共有を経験することにより、子供達に内在する豊かな感性を伸ばして行こうと試みているのである。

このような現状を踏まえ、本学の保育士養成課程における音楽表現の内容の充実を図るため、さまざまな検討をおこなってきた。特に、入学前までのピアノの未経験や音楽の基礎知識の不足ということについても考慮しなければならぬのだが、乳幼児に対して実践的な活動をおこなえることが望ましいことでもあるため、できるだけそれらに則した内容の充実を試みてきた。

今回は、講義での実践的取り組み、さらにそれらから学生たちがどのような音楽表現技術を習得することができたのかということについてアンケート調査を実施し、今後の講義の方向性を模索することを目的とした。

## 音楽関係科目の概要

本学の保育士養成課程で開講されている音楽関係科目は、次の通りである。

1. 器楽Ⅰ（1年前期）  
バイエルを中心にした楽曲のピアノ演奏
2. 器楽Ⅱ（1年後期）  
ピアノによるこどものうたの弾き歌い
3. 音楽A（1年前期）  
音楽理論・こどものうた・ゆびあそび
4. 音楽B（1年前期あるいは後期）  
合唱・コールユープンゲン
5. 生活と表現（2年通年）  
オペレッタ・表現遊び・リズム運動・歌遊び・ゆびあそび・身近な素材を使ったあそび道具の製作

上記の中で、筆者は「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「音楽A」「生活と表現」を担当している。特に、2年次に開講されている「生活と表現」では、動きを通じた体験的な内容を重視し、先に述べた音楽表現活動の実践に役立てることができるよう創意工夫をおこなっている。この「生活と表現」におけるいくつかの取り組みについて次に述べることにする。

## 「生活と表現」の主な内容

筆者は、これまで講義を進めて行く上で、どのようにしたら学生達が子供の姿を思い浮かべながら授業参加がおこなえるのか試行錯誤を繰り返してきた。子どもは見たこと、聞いたこと、感じたことなどを体全体で表現しようとする。そしてそれらは音楽と深く関わっていることが多いため、保育者自身の豊かな感性はもちろんのこと、いろいろな音楽表現方法の習得が必要不可欠なのである。そのため、筆者はこれまで動きを伴う経験的な活動を中心に講義をおこない、学生たちから、「表現する楽しさを知ることができた」「イメージが浮かぶようになった」「音楽といろいろな遊びのつながりを知った」などの感想を得てきた。

しかし、乳児保育の充実や子育て支援センターとして保育園（所）の地域に果たす役割が大きくなるにつれ、保育士に対する要求も多様になり、より多くの音楽表現技術の習得が望まれるようになったのである。

そこでそれらを踏まえ、これまで音楽遊びや表現遊びの活動場面を取り上げその活動方法を説明するようにしていたが、さらにそれらの活動の中で予想できる子供の姿や子供とのやりとりを挿入するなど、できるだけ子どもの姿がイメージできるようにした。また、動きの創作やテーマ表現などにも取り組んできたが、役を演じる経験の必要性からオペレッタ活動も取り入れ、身体表現の素地作りをするようにした。今回の調査では、前述のような取り組みが学生の中にどのように活かされているかを知る手掛かりになるのではないかと考えている。次に講義の主な内容とその取り組みについて説明することにする。

### 1. オペレッタ

5人～7人のグループに分かれ、各グループ毎に10分～15分で演じることのできる小オペレッタに取り組み、それぞれ異なる演目を選択するようにする。また、背景、小道具、衣装につ

いてはできるだけ身近な物や廃品を利用し、必要と思われる物のみ用意作成する。全員が歌い演じることに加え、講義ではオペレッタ以外に他の音楽教材の学習もおこなわなければならないため練習回数は3回と少なく、4回目に発表会を開催するというスケジュールである。このため講義以外での協力も必至で、グループが決まると同時に学生たちは慌ただしく準備に取りかかるのである。

また、調整可能なクラスは実際に保育現場を訪問し、子供達にオペレッタを演じるようにしている。

### 2. ゆびあそびや歌遊び

あやし遊びやからだ遊び、ふれあい遊びのようなものからリズムカルで動きの激しいものなどを交互にやり合いながら習得して行く。特に、あやし遊びやからだ遊び、ふれあい遊びは『0歳児～2歳児』を知る手掛かりになるため、子供の姿がより具体化するよう事例提供も併わせておこなっている。

具体的な内容としては、「だっこしてぎゅ」や「かいぐり」のようなひざのせ遊びをしたり、「ほっぺほっぺ」や「ぞうきんぬったら」を歌いながらさわりっこ遊びを試し、乳児への思いを意識化できるようにしたり、「はちさんブーン」のおいかげ遊びや「なれるかな」などのまねっこ遊びを通して、芽生えている機能をじょうずに引き出して行く役割を知ることができるようにしている。

また、歌に合わせて体を動かすだけでなく、集団遊びとしてゲームの要素を取り入れながら楽しく歌や遊びを習得して行く。この場合も年齢によってどのように遊びを変化させていくことが望ましいのか、各年齢の特徴を示しながら歌遊びを展開し、学生自身にも遊びの創作をおこなわせている。

例えば、『2・3歳児』の場合は音楽に合わせて体を動かすことが楽しめるよう平易で短い歌の利用を考えたり、模倣表現のイメージを描きやすくするため既成曲の利用について考えたりしている。また、『3・4歳児』の場合では

日常保育や幼児の経験に関連した内容と音楽を結び付け、イメージが豊かになるような活動に取り組んだりしている。さらに『4・5歳児』の場合には、自分自身で変化をつけたり、リーダー経験ができるような活動内容の検討をするなど学生たちと意見交換をおこないながらゆびあそびや歌遊びに創意工夫を加えている。

### 3. いろいろな表現活動

これらは移動運動を伴っておこなわれることが多いため、空間の使い方を学ぶことができる。速さの遅速や音の高低などを利用したリズム遊び・模倣表現・テーマ表現をおこなうことにより、学生自身の表現技術向上を図ることを主目的としている。また、簡易楽器だけでなくボールやフープその他の身近な道具の利用についても取り上げ、保育に生かせるよう工夫している。

もともと歌遊びなどと絡み合いながらおこなわれているのであるが、学生自身の表現活動の経験ということを踏まえ、項目を別にした。そのため、講義の集大成としてグループによる「テーマ表現」の発表（祭り、海、風、砂遊び、雨、粘土遊び etc）をおこなっている。

### 4. 身近な素材を使つての遊び道具の製作

身近な素材を利用して遊び道具や飾り物、手作り楽器を工夫して作り、それらを使つて遊びを楽しむ。これらを互いに見せ合うことで他者とのアイディアの認め合いや製作活動を含んだ音楽的な表現を経験することができる。

## アンケート調査について

1. 第1回調査実施日 平成11年6月  
対象 保育・幼稚園コース 1年生  
127名
2. 第2回調査実施日 平成12年12月  
対象 保育・幼稚園コース 2年生  
107名

### 3. アンケート内容と方法

(第1回調査)

①こどものうた②ゆびあそび③集団遊び・ゲ

ーム④合奏で使用される曲についてどのくらい知っている曲があるのか、また、知っているだけでなく無伴奏で歌える曲はどのくらいあるのかということについて調査した。この場合、筆者が1997年に調査を実施した「保育現場における音楽教材の調査<sup>1)</sup>」結果を参考にし例示曲を作成した。

まず、①こどものうたでは現場での使用が10%以上の75曲を選曲し、同様に②ゆびあそびでは現場での使用が5%以上の34曲、③集団遊び・ゲームでは現場での使用が5%以上の20曲、④合奏で使用される曲では現場での使用が3%以上の21曲選曲し、例示曲とした。

まず、それぞれの項目ごとに曲名一覧（順不同）を作成し、その中から自分の知っている曲の番号を記入する方式にしその場で回収した。さらに、知っているだけではなく実際に無伴奏で歌える曲（メロディーはもちろんだが、歌詞については1番の歌詞のみでも正確に歌えれば良いという条件にした）について、また例示曲以外に知っている曲についても記述するようにした。

(第2回調査)

①こどものうた②ゆびあそび③集団遊び・ゲーム④合奏で使用される曲以外に「オペレッタを経験したことへの感想」について該当項目選択による記述を加え、2年間の音楽表現技術向上について確認できるようにした。

## アンケート集計結果

1. 第1回アンケート集計結果（1年次）
  - ①A欄は知っている人数の割合（%）
  - ②B欄は実際に歌える人数の割合（%）
2. 第2回アンケート集計結果（2年次）
  - ①C欄は知っている人数の割合（%）
  - ②D欄は実際に歌える人数の割合（%）

表1 「こどものうた」 (%)

曲名	(1年次)		(2年次)	
	A	B	C	D
おつかいありさん	44	11	77	36
ことりのうた	29	8	55	26
たこのうた	5	0	15	6
あめ	15	3	45	22
バスごっこ	3	1	60	31
おばけなんてないさ	66	24	81	47
おはながわらった	18	4	41	13
ゆきのペンキやさん	4	0.7	31	13
ゆきのこぼうず	2	0	7	4
ぞうさん	61	40	85	57
おめでとうたんじょうび	20	6	53	29
とんでったバナナ	27	5	69	35
コンコンクシャン	5	1	14	7
ゴリラのうた	23	5	83	50
きくのはな	2	0.7	40	19
あまだれポットン	1	0.7	83	39
こぎつね	59	12	84	50
ライオンのうた	4	0	75	40
たなばたさま	54	25	80	47
こいのぼり	61	32	87	52
チューリップ	65	37	85	56
あわてんぼうのサンタクロース	64	27	85	53
あめふりくまのこ	23	4	85	23
アイスクリーム	21	1	57	43
おしょうがつ	61	26	78	51
かえるのがつしょう	62	32	86	68
かたつむり	82	28	85	52
どんぐりころころ	64	37	87	57
うれしいひなまつり	59	20	84	50
おかあさん	51	21	73	35
とけいのうた	15	4	73	29
しゃぼんだま	64	27	82	50
みずあそび	6	0.7	59	25
うみ(うみだうみだ)	3	0.7	67	36
みずでっぼう	4	0	60	26
まめまき	19	2	72	32
とんぼのめがね	63	25	86	56
ちょうちょ	61	25	88	56
まつぼっくり	33	6	79	43
ゆき(ゆきやこんこ)	44	13	78	46
ありさんのおはなし	15	1	79	46
さんぽ(トトロより)	55	20	84	46
おもいでアルバム	59	22	84	50

めだかのがっこう	62	26	84	53
せんせいとおともだち	20	4	58	31
もりのくまさん	56	23	79	50
つばめ	0.7	0	4	3
せみのうた	0.7	0	6	3
うみ(うみはひろいな)	60	26	85	51
いぬのおまわりさん	61	28	86	54
むすんでひらいて	61	22	86	55
おもちゃのチャチャチャ	62	25	86	51
ジングルベル	56	18	85	49
うちゅうせんのうた	4	2	10	5
南の島のハメハメハ大王	58	9	86	48
おおきな古時計	61	23	87	52
はをみがきましよう	10	0	56	26
すうじのうた	13	1	41	24
もみじ	28	4	66	29
ホッホッホッ	4	0	23	14
きらきらぼし	57	19	85	50
たきび	42	11	82	36
てをたたきましよう	34	6	77	38
ぶんぶんぶん	62	30	86	50
ひまわり	2	0.7	5	2
アイアイ	63	27	86	49
こおろぎ	0.7	0	20	7
あかはなのトナカイ	43	15	80	48
サンタクロース	30	4	69	31
てのひらをたいうように	58	16	85	40
いもほりのうた	4	0	28	12
あくしゅでこんにちは	15	3	77	36
なみとかいから	0	0	8	6
やきいもグーチーパー	6	1	82	49
おもちつき	2	0	21	6

表2 「ゆびあそび」 (%)

曲名	(1年次)		(2年次)	
	A	B	C	D
いっぼんぼし	15	3	84	52
とんとんとんひげじいさん	35	7	86	56
グーチョキパー	37	14	82	52
いっぴきののねずみ	2	1	64	36
さかながはねた	2	0.7	63	29
やまごやいっけん	4	3	40	13
おべんとぼこ	51	13	83	54
とんとんとんアンパンマン	6	0.7	83	41

メロンパンのうた	1	0	21	8
パンやさんにおかいもの	0.7	0	31	19
大きな庭小さな庭	0.7	0	14	17
奈良の大仏さま	0	0	13	6
十べえさんと八べえさん	1	0.7	11	7
あたまかたひざポン	6	1	84	54
一丁目のウルトラマン	0	0	64	36
カレーライスのうた	1	0	22	5
げんこつやまのたぬきさん	52	20	83	51
デブちゃんがかけてきて	0	0	43	18
たまごのうた	0	0	54	32
とんとんとんドラエモン	2	0.7	61	26
ホーキポーキ	0	0	30	20
かなづちトントン	0	0	9	3
いとまき	50	16	82	52
むすんでひらいて	51	15	84	55
おおきなくりのきのしたで	50	18	85	55
ワニのうた	0	0	28	16
おはなしゆびさん	8	2	31	18
やきいもグーチャーパー	4	0.7	79	52
ずっとあいこ	0	0	3	1
おとうさんゆびどこです	1	0.7	44	19
ちやつぽ	30	11	73	35
キャベツはキャキャキャ	2	0.7	46	18
めだかのひらき	0	0	55	27
コンパクト	9	3	32	20

ハンカチおとし	57	19	85	38
おおかみさんいまんじ	10	2	71	21
かごめ	57	19	86	37
ジャンケン列車	42	12	81	34
かくれんぼ	63	23	87	42
こおりおに	61	21	85	40

表4 「合奏で使用される曲」 (%)

曲名	(1年次)		(2年次)	
	A		C	D
おもちゃのチャチャチャ	61		86	52
きらきらぼし	58		85	49
おおきなたいこ	16		50	24
かえるのがっしょう	58		79	46
ドレミのうた	60		84	48
ミッキーマウスマーチ	52		82	41
あわてんぼうのサンタクロース	59		81	47
こぎつね	44		77	44
南の島のハメハメハ大王	51		81	40
ジングルベル	52		83	47
チューリップ	56		80	45
小さな世界	56		79	43
まつぼっくり	27		69	38
メリーさんのひつじ	53		80	44
たのしいね	29		43	22
山の音楽家	46		79	42
アイアイ	54		83	43
とけいのうた	14		61	25
てをたたきましよう	36		75	37
おんまはみんな	25		42	34
おおきなくりのきのしたで	55		80	49

表3 「集団遊び・ゲーム」 (%)

曲名	(1年次)		(2年次)	
	A	B	C	D
イスとりゲーム	64	25	87	42
フルーツバスケット	61	23	87	39
おにごっこ	63	24	87	42
いろつきおに	38	23	83	39
あぶくたった	38	13	76	35
サッカーゲーム	19	9	68	28
はないちもんめ	63	20	86	38
しっぽとりゲーム	23	8	75	32
たかおに	54	20	85	40
だるまさんがころんだ	63	25	87	42
ジャンケンゲーム	38	12	76	33
じんとり	44	13	77	34
ドッジボール	64	22	86	42
ころがしドッチ	47	16	82	39

表5 「無伴奏で歌える曲数と人数」 (%)

(1年次)	
①10曲未満	38
②10曲～19曲	16
③20曲～29曲	21
④30曲～39曲	17
⑤40曲～49曲	7
⑥50曲以上	1
(2年次)	
①10曲未満	0
②10曲～19曲	3

③20曲～29曲	7
④30曲～39曲	12
⑤40曲～49曲	7
⑥50曲以上	71

表6 「例示曲以外に知っている曲」

(1年次)	
①記述なし	
(2年次)	
①こどものうた	64曲
②ゆびあそび	42曲
③集団遊び・ゲーム	27曲

表7 「オペレッタ」(%)

1. オペレッタに取り組む前の気持ち	
①やりたくないと思った	14
②やってみたいと思った	49
③どちらでもよいと思った	38
2. グループ練習についての感想	
①楽しかった	80
②みんなが協力的だった	35
③一部の人に負担がかかった	22
④大変だった	55
⑤練習回数が少なかった	64
⑥今回の練習回数でよい	7
⑦自分の役は1人ででも練習した	6
3. 役決めについて	
①なかなか決まらなかった	9
②すぐに決まった	70
③ジャンケンで決めた	19
④役に合う人を相談して決めた	38
⑤伴奏者も演技するようにした	46
4. 場面毎の演技について	
①なかなか決まらなかった	23
②すぐに決まった	23
③リーダーが考えて決めた	35
④皆で相談して決めた	14
⑤全体の流れを考えるのは難しかった	52
5. 演じることについて	
①恥ずかしかった	75
②役になりきれた	10
③役になりきれず難しかった	20
④物語でイメージが描きやすかった	22
⑤無我夢中で精一杯やった	10
⑥一緒に演じる楽しさを知った	10

6. 台詞について	
①台詞を言うのは恥ずかしかった	52
②感情をこめて言えた	19
③声の大きさなど調整が難しかった	51

7. 背景や小道具について	
①もっといろいろ作りたかった	66
②今回の制約でよい	13
③制約があったので工夫できた	20
④もっと衣装の工夫をしたかった	36
⑤協力して製作できた	43
⑥一部の人に負担がかかった	19

8. 「オペレッタ」を経験することにより保育者として  
どんな事が学べたと思いますか

①人前で演じることの楽しさ
②協力して作り上げて行く楽しさや達成感
③笑顔や顔の表情の大切さ
④即興でもユーモアのある表現ができること
⑤全身で演じることの楽しさ
⑥自己表現ができるようになった
⑦背景や小道具の工夫
⑧クラスの仲間との交流
⑨相手役の立場や気持ちを理解する大切さ
⑩人前で大きな声を出すこと

9. 園児の前で「オペレッタ」の発表をしたことにつ  
いての感想

①園児の前では思ったより緊張しなかった
②園児が楽しんでくれるかどうか心配だった
③園児の反応は素直なのでやりがいがあった
④園児達が物語の中に入り込み、感動した

### 結果と考察

表4の「合奏で使用される曲」については、1年次に無伴奏で歌えるかどうかの回答の記述がなかったため、未記入である。

1年次と2年次の「知っている曲」の集計結果を比較すると、表1の「こどものうた」では、1年次では50%以上のものが31曲、2年次では58曲で、そのうち80%以上のものが34曲と多い。また、10%未満を比較すると、1年次は21曲あるが2年次では5曲と少なく、ここでもいろいろな曲に接したことが明らかになっている。

もちろん、知っているだけでは実際に活用することはできず、すぐに「無伴奏で歌える曲」

がどのくらいあるのかを見てみると、1年次では50%以上の曲はなく、「ぞうさん」の40%が最も高い。10%未満の曲は41曲、10%以上は8曲、20%以上は21曲、30%以上は5曲、40%以上は1曲である。2年次では10%未満の曲は10曲で、10%以上は5曲、さらに20%以上は10曲で、30%以上は12曲、40%以上が14曲で、50%以上が24曲である。1年次に10%未満の曲が41曲あったのに対し2年次には10%未満の曲は10曲と減少しており、40%以上の合計を比較してみても1年次では1曲、2年次では38曲と増加している。

このように1年次に比べ2年次では実際に歌える割合は高くなっているのだが、今回の調査では1番の歌詞のみでも正確に歌えれば良いという条件であったため、相当数の曲が挙げられたと思われる。全曲の完全な歌唱となるとおそらく曲数は減少するであろう。そのため、保育の様々な場面での音楽との出会いを考えてみると、自分の声を使って子供達と関わるためにはさらに確実な歌の習得が必要であろう。

「ゆびあそび」では、1年次で実際におこなえる曲で30%以上の曲はなく、20%以上の曲が1曲、10%以上の曲が6曲、10%未満は27曲でそのうち0%の曲が13曲ある。このことからこれまであまり経験のないことがよく分かる。一方、2年次では50%以上の人が知っていると言った曲が18曲と例示曲の半数以上あるのだが、実際にすぐにおこなえる曲は50%以上のものが10曲とそれほど多くはない。これらは日常保育のさまざまな場面で利用されているため、「ゆびあそび」をおこなう機会をもっと多くし、曲数と習得の向上を図りたい。

1年次より「こどものうた」や「ゆびあそび」については課題曲も決められているのだが、実際に子どもの前で実践するなど、繰り返しそれらをおこなう機会がないため忘れてしまうのではないかと考えられる。また、「例示曲以外に知っている曲」という質問に対して、1年次では全く記述がおこなわれていなかったのだが、2年次では64曲の記述がなされており、レパートリーの広がりが感じられる。但し、2年次

においても知っている割合の低い曲は、課題曲(器楽II)以外が多いため、それらの曲の他講義での取扱いが今後の課題であろう。

「集団遊び」や「合奏で使用される曲」などは、一般的によく知られていたり、レクリエーションなどでも経験があるため、1、2年次共に予想していたより割合は高いのだが、やはり2年次では実習などの経験により、より実践的になっていることが窺える。また、他項目の曲との重複もあり、割合で多少の違いは出ているがそれぞれの項目での比較において参照するようにした。

「オペレッタ」については、やってみたくて思った人は約半数だが、実際に取り組んでみた結果、楽しかったという感想が80%と多く、恥ずかしかったにもかかわらず一生懸命演じた姿を窺い知ることができる。また、「保育者としてどんな事が学べたか」という質問に対して、③笑顔や顔の表情の大切さ⑤全身で演じることの楽しさ⑨相手役の立場や気持ちを理解する大切さなどの感想が出され、それぞれの感性を豊かにしてくれていることが感じられるのである。さらに、園児たちの前で演じることでやりがいや感動を感じ、表現することの充実感を味わったのではないだろうか。練習回数の不足や背景や小道具の製作については、もっと時間を費やしたいという意見が半数以上あるため再考が必要であろう。ともあれこれらのアンケートから、「オペレッタ」への取り組みが保育者としての感性を高めることへの影響は大きく、今後いろいろな可能性に挑戦して行きたいと考えている。

また、その他に『生活と表現』の受講後の総合的な感想として、いろいろな音楽表現の習得に役立ったという記述が80%に見られ、「体を動かしているんなことを身に付けることができた」「音楽に合わせて表現したり、ゲームを楽しんだりすることができた」「表現することや歌遊びなどの習得に役立った」などの感想が述べられていた。

以上のような結果により、少しずつではあるが学生たちに音楽表現技術の向上を見ることが

できた。確かに、乳幼児と関わりながら1人1人の感性に呼応していくことは大変難しいことではあるが、感性和感性の響き合った瞬間、保育者は何にも変え難い喜びを知り、共に育ち合うことを実感できるのである。学生たちが感性豊かな保育者として成長して行けるよう、これからも音楽とイメージ、音楽と遊び、実践的な音楽表現活動の創意工夫に一層取り組んでいきたいと考えるのである。

#### 参考文献

- 1) 仲嶺まり子「保育現場における音楽教材の調査」『別府大学短期大学部紀要』第16号 P109～118 (1997)